

## 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会

### 核医学分野の大型計画検討小委員会(第25期・第3回)議事要旨

1. 日 時 令和4年6月13日(月)13:00～15:00
2. 会 場 遠隔会議(オンライン開催)
3. 参加者:柴田徳思委員長、大倉典子、神田玲子、青木茂樹、井上優介、遠藤啓吾、岡沢秀彦、櫻井博儀、中野隆史副委員長、足達芳嗣、内堀幸夫、絹谷清剛幹事、張明栄、畑澤順、東達也幹事、藤井博史

#### 4. 配布資料

- 資料1: 第25期第2回核医学分野の大型計画検討小委員会議事要旨
- 資料2: 申出書「核医学診療の推進について」
- 資料3: 診断・治療用 RI 製造の現状と課題
- 資料4: 申出書「放射性薬剤の研究開発・製造拠点の整備」(案)
- 資料5: 見解「放射性薬剤の研究開発・製造拠点の整備」(案)
- 参考資料1: 意思の表出に関するプロセスや未来の学術振興構想について
- 参考資料2: 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会(第25期・第2回)議事要旨等

#### 5. 議事内容

- (1) 前回議事要旨(資料1)の確認を行った。
- (2) 神田委員より、参考資料1に基づき、日本学術会議における意思の表出および未来の学術振興構想に関する説明があり、小委員会委員内での情報共有がなされた。  
意思の表出の申出書において、広く一般の方からの意見を集めることの重要性が指摘され、今後、本小委員会で取りまとめる見解の作成前後における具体的な取り組みが検討されることになった。また未来の学術振興構想の応募時期などから、今後の見解作成に向けた大まかなタイムスケジュールに関する説明があり、了承を得た。
- (3) 神田委員より、以前より検討を進めていた「核医学分野の研究開発拠点の整備に関する検討」(案)の進捗概要について説明があった。  
日本学術会議の意思の表出に関する変更を踏まえて、個別分野である核医学分野にのみ関わる一つの「提言」ではなく、幅広い分野や学協会に関わるものとして「見解案」をまとめたところ、放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会第2回会合では、さらにスコープを

広げる方向での意見が出された(参考資料 2)。そこで、診療サイドと研究開発サイドに分け、2つの「見解」としてまとめていく方向性について分科会委員の意見を伺い、承認されたとの説明があった。

(4) 診療サイドの課題と解決に関しては、これまでの検討結果をもとに、意思の表出の申出書(資料 2)を作成し、既に日本学術会議事務局に提出済みであることが報告された。

また原子力安全に関する分科会・研究用原子炉の在り方検討小委員会においても研究用原子炉を用いた RI 製造の現状と課題に関する議論が行われていることや、最近、原子力委員会が「医療用等ラジオアイソトープ製造・利用推進アクションプラン」を公表したことに鑑み、見解「核医学診療の推進について(仮)」に盛り込むべき課題の再整理が必要として、柴田委員長が資料 3 を用いて、診断・治療用 RI 製造の現状と課題をレビューした。

委員からは、基礎研究にフォーカスした見解をまとめるという点への賛意が示された。特に、これまで核種製造においては、定量的な評価が十分なされた上での提言がなされていないことから、そうした観点からの記載の必要性が指摘された。

(5) 見解「放射性薬剤の研究開発・製造拠点の整備」のとりまとめについて、申し出書(資料 4)および見解(資料5)に基づき、東委員より説明がなされた。今後メールにて、本小委員会の委員から両資料に関するコメントを反映して、ブラッシュアップを行うとともに、放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会にて正式なメール審議の上、承認を得て、7 月中に申出書を日本学術会議事務局に提出することとした。

(6) 今後の大まかなスケジュールの再確認、メール会議などの具体的な締め切りタイムスケジュールについて、改めて委員へ案内通知することが周知された。

以上 (文責: QST 東達也)